慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	日中同形語における品詞性のずれに関する研究：二字漢語を中心に
Sub Title	
Author	丘, 丽嘉(Kyu, Reika)
Publisher	慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター
Publication year	2012
Jtitle	日本語と日本語教育 No.40 (2012. 3) ,p.156- 156
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20120300-0156

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』40: 156 (2012.3)

〔日本語教育学講座修了論文〕

日中同形語における品詞性のずれに関する研究
――二字漢語を中心に――

丘　　レイカ

中国の学習者は日本語の漢字を学習する際に、非漢字圏の学習者に比べ、有利であるといわれる傾向がある。しかし、近年その利点は「落とし穴」ともいわれている。一つの原因は、中国学習者による日中同形語の扱いから生じた問題であると考えられる。日中同形語に関する問題は主に漢字表記、意味、品詞性、プラスとマイナス表現、語感、使用場面などといわれている。本論文では日中同形語の品詞性を中心に、同形語の品詞性を把握し、日中におけるずれを持つ語彙の用例を分析し、誤用対策を考えることを目的とする。

本論文では、『日本語能力試験出題基準』に基づいた1級と2級の語彙リストを作成し、そのリストから二字漢語を抽出し、複数の日本語辞典と中国語辞典でこれらの二字漢語の品詞性について調査を行う。さらに日中における品詞性のずれから生じやすい誤用例を集め、分析を行う。

本論文は全部三章に分けて構成する。

第一章では、本論文の動機を述べ、研究対象を明確にする。それに日中同形語の定義と日本語における漢語の品詞性も述べる。

第二章では、日中同形語における二字漢語による用例の分析を行い、それによって生じた誤用を把握する。日本語における漢語の品詞性をモデルにし、日本語と異なる品詞性をもつ中国語ではどのように対応するかについて分析する。

その結果、以下のような傾向が強いと考えている。

①日本語では名詞として使用する語彙を動詞、名詞・動詞、形容動詞、名詞・形容動詞、副詞、名詞・副詞、動詞・形容動詞、副詞・形容動詞、名詞・動詞・形容動詞、名詞・副詞・形容動詞としてとらえる。

②日本語では名詞・動詞として使用する語彙を名詞、形容動詞、動詞・形容動詞、副詞・形容動詞、名詞・副詞・形容動詞としてとらえる。

③日本語では名詞・形容動詞として使用する語彙を名詞、動詞、名詞・動詞、動詞・形容動詞、副詞、副詞・形容動詞としてとらえる。

第三章では、今後の課題について述べることにする。

そこで、誤用対策について、中国学習者に日本語を日本語として考えさせ、日中における品詞性のずれから生じた誤用を明確にし、用例分析を行いながら、日本語の使い方を覚えさせることが有効ではないかと考えている。